

臨床研修指定病院としての 現状と取り組み

さいたま赤十字病院 副院長
研修管理委員長
甲嶋 洋平

平成 28 年 4 月より研修管理の仕事をしていただいております。医師として働き始める研修医・専攻医に接することができ私自身としても初心を思い出し身が引き締まる思いです。当院での研修指導の目標は、人道・博愛という赤十字の理念のもと、①あまねくすべての患者さんの common disease、rare case、serious illness に対応できる医師を育てること ②救急医療の現場に対応できる医師を育てること ③今後起こるであろう災害に対する救護活動に従事できる医師を育てることです。

なるべく多くの患者さんに直接に関われるように参加型の研修を



まず初期研修医についてですが、各学年15名ずつ計30名が在籍しています。定員15名に対し今年度は、新型コロナウイルス感染症にもかかわらず121名の受験があり、面接・筆記試験を行い、15名を採用いたしました。面接では、医療過疎である埼玉県の医療に貢献したいと発言される学生さんが多く、今後の埼玉県の医療に光明を見いだす

思いでした。特に初期研修の時は、医師としての根幹、将来像を築く大事な時期です。なるべく多くの診療科で研鑽してもらい、視野を広げ、2年間の研修のうち10ヶ月の自由な選択期間に、minor科を含め自分で選択し勉強してもらっています。当院では各学年15名と同規模の近隣の病院に比べ募集人数は多くありません。これは少人数で各診療科を研修することにより、なるべく多くの患者さんに直接に関われるようにとの配慮です。見学型の研修ではなく参加型の研修をしてほしいからです。また年間9,000件程度の救急車で運び込まれてくる患者さんに臆することなく対応できるように、ER (Emergency Room) 当直と称し2次救急の救急車の初療を担当してもらっています。指導医のもと“救急車を断らない”を原則に1年目、2年目の研修医が、ひるまず患者さんに対応していく姿を見ると、今後の医療の展望も明るく感じます。

また当院内だけでの研修ではなく、近隣の診療所の先生方にご協力していただき地域医療の実習、隣接する埼玉県立小児医療センターでは専門の小児医療や小児麻酔、地域医療教育センターではシミュレーターを用いた実技研修をさせていただいております。今後の彼らの専門領域の決定にさいたま赤十字病院が携われることを光栄に思います。



次に卒後3年目以降で当院採用の専攻医は、1年生8人、2年生6人、3年生11人の計25人が在籍しています。内科(含循環器内科)、救急科、産婦人科、麻酔科、外科、眼科、総合診療科と専門に分かれ各診療科で指導医のもと主治医として実際に患者さんの治療に携わり、初期研修医の指導、そして相談にも乗ってくれています。

初期研修医、専攻医の皆さんがいずれ当院や近隣の病院、診療所に赴き、この地域の医療を支えてくれることを希望し指導を続けていきたいと思っています。

これからも若い先生達のことを、よろしくお願いいたします。



日本赤十字社 Japanese Red Cross Society

さいたま赤十字病院



日本医療機能評価機構
認定第 JC528 号

MESSAGE 診療科からのメッセージ

外科 げか

■重症の方や併存疾患をお持ちの患者さんにも 各診療科と連携し対応しています。

さいたま赤十字病院では新型コロナウイルス感染症の流行により、治療を受けられず救われるはずの命が救われなくなることの無いよう、感染対策に万全を期して患者さんをお待ちしております。

現在外科は、消化器がん診療を臓器別チームで診療しています。胃がん・大腸がん・食道がんを担う消化管外科チームは、内視鏡外科学会技術認定医3名を配し、手術の80%弱を内視鏡手術で行っています。肝臓がん・胆道がん・膵臓がんは、肝胆膵外科学会高度技能施設A認定(全国127施設)を受けた肝胆膵外科チームが担当し、高度技能専門医のもと、多くの患者さんに手術(内視鏡手術30%弱)を受けていただいています。また良性疾患・急性疾患はチーム横断的に診療にあたり、重症の方や併存疾患をお持ちの患者さんにも救急科など各診療科と連携し対応しています。これが日赤の強みであり自慢です。



第一外科 部長
新村 兼康

■2021年2月からはダビンチ手術(ロボット支援下手術)を開始

先進的取り組みとして、2019年9月より埼玉県立小児医療センターと合同で生体肝移植を実施しています。さらに2021年2月からはダビンチ手術(ロボット支援下手術)を開始します。

埼玉県南の中核病院・さいたま新都心医療拠点として、埼玉の患者さんの医療は埼玉で完結できるよう体制を整備していますので、安心して受診いただきたいと思います。

脳神経内科 のうしんけいないか

■脳・神経の疾患を 内科的専門知識と技術をもって診療しています。

さいたま赤十字病院が現在のさいたま新都心に移転した2017年に日本神経学会が標榜科名変更を決定し、われわれも2018年に長年使用していた「神経内科」から「脳神経内科」を標榜するようになりました。みなさまにも浸透していますでしょうか。

■脳神経内科は3つの柱を掲げ診療にあたっております。

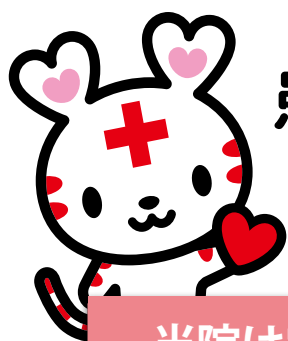
1つ目は超急性期・急性期の脳卒中診療に当たることであり、脳神経外科とともにチームを組み一次脳卒中センターとして24時間365日対応します。

2つ目は、認知症、パーキンソン病、多発性硬化症などの神経免疫疾患といった、主に慢性の脳・神経疾患の診断および治療に対応します。

3つ目として「頭痛」、「しびれ」や「ふるえ」といった日常よく遭遇する症状にも対応します。日常の些細な症状の中にも病気が隠れていることもありますのでご相談ください。



脳神経内科 部長
日野 秀嗣



患者の皆さまへのお知らせ&お願い

コロナ禍の折、当院は地域の基幹病院として患者さんへの高度な検査ならびに治療を、滞りなく行うよう心掛けています。患者の皆さまにおかれましても地域における当院の役割をご理解いただき、協力いただけるようお願いいたします。

当院は完全紹介予約制です

当院の外来部門は、「**完全紹介予約制**」です。当院で診療を開始されるにあたっては、**地域の医療機関からの紹介状と事前の受診予約の取得が必要**です。当院での診療を継続されている患者さんの現在受診されているご病気につきましては、受診予約日以外に具合が悪くなり当院への受診を希望される場合には、お電話をしていただき受診中の診療科外来にご相談くださるようお願いいたします。なお、当院で診療を継続されている患者さんにおかれましても、**異なる病状で別の診療科に受診される場合には、新たに他の医療機関からの紹介状と事前の受診予約が必要**となりますのでご承知下さい。

※受診の際、ご高齢等によりお一人での移動が困難な患者さんには、必ず付添者の院内同行をお願いいたします。当院の看護師あるいは事務職員がすべてをエスコートすることは出来ませんのでご了承下さい。

お薬手帳をご持参してください

皆さんがお持ちのお薬手帳は、状態の把握にとっても役に立ちます。お薬手帳がないばかりに治療が滞ってしまったり、病状を十分に把握できず患者さんの安全性が損なわれる場合もあります。受診の際にはぜひお薬手帳をご持参ください。



外来受付番号がモバイルシステムに表示されます

外来受付窓口直上の大型モニターに表示される**各診察室の診察待ち受付番号**が、**ご自身のスマートフォンやタブレットでも同じように確認**できます。これにより外来受付から離れた場所においても、各診察室の診察待ち受付番号がご覧いただけます。当院ホームページのトップ画面や、受付票裏面のQRコードからアクセス可能ですので、ぜひご利用下さい。



サーモグラフィーによる検温実施にご協力ください



2階出入口で、サーモグラフィーによる来院者の検温を実施しております。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、院内に入られる際にはご協力をお願いいたします。

総合支援センター 相談支援課 相談窓口のご案内

総合支援センターは ★入院のご案内と手続き ★各種相談 の窓口です。

「入退院支援」、「医療福祉相談」、「がん相談」等に、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員、総勢34名のスタッフが協同しています。お気軽にご利用ください。

入退院支援

- 入院を予定されている患者さんに対して多職種で連携を行い、早期に社会復帰ができるよう、当院では患者さんの状況により入院支援看護師が面談をさせていただいております。
内容は主に①休止薬の確認 ②入院前の生活状況（身体的、精神的、社会的な問題等）についてです。
※相談窓口が混雑している場合や、午後4時以降に相談窓口にお越しなられた場合には予約をお取りいただき、後日面談をさせていただいております。
- 入院時から退院後を見据え、患者さんやご家族が治療を受けながら安心した生活が送れるよう退院支援看護師と医療ソーシャルワーカーが病棟看護師との情報交換を行い、必要な際には支援をさせていただきます。
- 退院支援看護師が、退院後の自宅での生活、介護その他についてご相談をお受けいたします。

ご相談内容の例

- 介護保険の申請・介護サービスについて
- 在宅における介護について
- 福祉用具（ベッド・車椅子など）・住宅改修などについて



医療福祉相談

- 医療ソーシャルワーカーが、病気やけがの療養に伴う生活上のさまざまな問題について、社会福祉の立場から相談をお受けいたします。

ご相談内容の例

- 医療費や生活費について
- 他の医療機関や施設について
- 社会福祉制度について



がん相談

- がん相談看護師が、がんに関する一般的な医療情報の提供や療養上の相談をお受けいたします。

ご相談内容の例

- 治療や副作用について
- セカンドオピニオンについて
- 仕事と治療に関する不安など



*当院での急性期の治療や専門的な治療が終了し症状が安定した患者さんには、転院先の医療機関や施設等の情報を提供させていただいております。何卒、ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

相談支援課長（兼）看護師長 小野島 圭子

薬・薬連携

患者さんへの治療が安心・安全な治療になるように

薬剤部 外来がん治療認定薬剤師 後藤 孝之



化学療法室で抗がん剤注射の患者指導業務を担当しています。当院では外来で抗がん剤治療を行う化学療法室があります。私は化学療法室で患者さんに抗がん剤の副作用やその良い対応法を説明し、医師や看護師と協力しながら患者さんへの治療が安心・安全な治療になるように業務を行っております。

『連携充実加算』が新設されました。

患者さんは外来で抗がん剤注射を行い、終了後院外薬局で内服薬や外用薬を受け取って帰宅されます。(内服薬や外用薬が処方されない場合もあります。)その際、院外薬局の薬剤師は処方せんから治療内容を推測したり、患者さんから治療内容を教えて頂しながら患者さんに合わせた服薬指導や薬学的管理を行っております。



そのような中、令和2年度の診療報酬改定で『連携充実加算』が新設されました。『連携充実加算』は《患者に治療内容(レジメン)を提供し、患者の状態を踏まえた必要な指導を行うとともに、地域の薬局薬剤師を対象とした研修会の実施等の連携体制を整備している場合の評価を新設した》とされています。また厚生労働省のウェブサイトには患者さんが院外薬局に治療内容(レジメン)情報を提出し、その情報を院外薬局が有効利用する仕組みが示されています。これは**院外薬局で利用可能な情報が今までは処方せんからの推測や患者さんからの口頭による情報だったものから、今後は病院からの正確な情報も加わる**ことを意味しています。これにより院外薬局の薬剤師は、患者さんの状態に合わせた指導が可能となりました。当院では治療内容(レジメン)情報の有効利用のため、地域の薬局薬剤師を対象とした研修会を行っております。



研修会の内容は以下のとおりです。

- ①患者さんにお渡しする『抗がん剤治療情報提供書』の見方
- ②当院へのフィードバックの方法
- ③よく使われている治療内容(レジメン)の解説

研修会には、数多くの院外薬局の薬剤師が参加し、熱心に耳を傾けています。

現在までに、院外薬局との治療内容(レジメン)情報を共有する仕組みは出来ました。今後は病院薬剤師と院外薬局の薬剤師が協力して、患者さんへの治療がより安心・安全な治療になるようにサポートしたいと考えています。



みんなの笑顔を守る！ スタッフ紹介

日章警備保障株式会社

当社がさいたま赤十字での委託警備業務に従事し、今年が30年の節目になります。
業務として、警備業務、洗濯業務、リネン業務、メッセンジャー（病院内での物品配送等）業務、医局業務と幅広く担当しておりますが、当院に来院される皆さまと直接関わらせていただいている業務についてご紹介します。

業務内容は、大きく3つに区分されます。

1. 警備業務（受付・案内女性含む） 2. 防災センター業務 3. 事務業務

1. 警備業務

警備業務としては、駐車場案内、車椅子の補充、1F並びに2F玄関での出入監視、トイレ並びに各相談室からの緊急コール等の対応に従事しております。駐車場案内業務では、平面及び立体駐車場が整備されたことにより、駐車台数が飛躍的に増えましたが、炎天下、極寒、暴風雨での業務は激務となることもしばしばあります。館内をスクリーニングしている防犯カメラにより、不審事象を監視し、緊急対応事案が発生した際には2名体制で現場に急行出来るよう備えています。

その他、館内に設置している自販機のトラブル対応、各階のウォーターサーバーへの飲料補充のほか、屋上ヘリポートでのドクターヘリ並びに防災ヘリの飛来時における、発着時の安全確認、照明点消灯、エレベータの独立運転操作を行っております。なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止を目的とした、病院内の新たな動線確保も重要な任務となりました。

夜間、休診日につきましては、上記業務に加え、開館時の解錠及び入場規制、閉館時の施錠を含む巡回業務、鍵の貸出業務、電話対応なども行っております。

さらに、救急車による転院搬送やドクターカーの運転業務も行っており、中でもドクターカーの出動要請時には、防災センターからドクターカー待機場所まで館内放送と同時に急行のうえ緊急出動にあたっております。

2. 防災センター業務

防災センター業務は、火災受信盤を中心として、エレベータ制御盤、火災通報装置、エアシューター等の各種制御盤等を駆使した緊急対応、及び5台のモニターを揃えて有事の情報収集に備えています。

火災時を含め災害発生時には、防災センターが災害対策本部となり初期対応を求められます。病院幹部をはじめ各部署の代表者が参集するまで、防災センター要員として初期対応を行い、参集者に引継いだ後は本部要員として館内放送、人員・車両整理等に従事することになります。



3. 事務業務

窓口業務は、面会案内、拾得物の処理、各種鍵及びセキュリティカードの管理と貸出・回収、駐車券の検印、郵便・宅配便の受取・配送などの業務を行っております。なお、面会者などに貸出を行っているセキュリティカードの管理につきましては、管理用端末による追跡や権限制御により、1日に1000枚近いカードの貸出業務を総合案内職員と協力のうえ行っております。

また、事務業務として、診療日の時間外（17時00分～翌朝8時30分）並びに休診日における、救急車で来院された患者さんへの受付業務、救急車に同乗されて来院された方へのご案内、その他の救急患者さんへの受付業務、診療費の算出並びに受領、産科入院患者さんへの病棟の案内、死亡退院者への対応等について、事務日当直者と連携し業務も行っております。



日章警備保障株式会社
北関東支社

石尾 悟

病理部の業務紹介

病理部 細胞検査士
伊佐山絹代

病理部は当院 6 階にあり、病理専門医（日本病理学会の認定資格を持つ医師で病理診断科に所属）3 名と臨床検査技師 9 名（うち細胞検査士 4 名）で業務を行っています。

●病理部の主な業務は**組織診断**（組織診）、**細胞診断**（細胞診）、**剖検診断**です。

組織診断

組織診は**病変そのものや正常組織との関係を調べる検査**であり、内視鏡や手術で採取した検体を調べます。採取された検体はホルマリン液で防腐処理をされ（固定）、病理専門医による丁寧な肉眼観察を経て、大きさと重量測定、スケッチや写真撮影の後、切り出し（ナイフで組織を切り出しサンプリングする）をします。その後、臨床検査技師が専用の装置で処理をし、最終的にパラフィン（ろう）に浸透させて、ろうと共に $4 \times 3 \times 0.5\text{cm}$ くらいのプラスチック製容器にしっかり取り付けます（これをブロックといいます）。ブロックの組織を器械で薄く均一に削り、スライドガラスに貼りつけ色素で染色（細胞や核に色を付ける）してプレパラートを作製します。病理専門医はプレパラートを顕微鏡で観察し、病理診断を行います。病理診断を基に主治医は患者さんの治療方針（手術、投薬、放射線治療など）を決定します。プレパラートやブロックはセカンドオピニオン（主治医以外の医師に求める第2の意見）や紹介状と一緒に当院に持ち込まれたり、当院から他院に持ち出しされたりしています。どちら



も室温で数年間は保存可能なため大切に整理保管されていますが、それらの管理も病理部の重要な業務です。現在、ブロックは分子標的薬（がん細胞の表面にあるたんぱく質や遺伝子をターゲットとして攻撃する薬）を決定する検査に欠かせないものになっています。また、組織診の術中迅速診断業務（手術中に採取された検体を凍結して 30 分程度で病理診断する）は、執刀医が手術方針や切除範囲を決める際に大きく関与しています。

細胞診断

細胞診は尿や喀痰などの検体の細胞を集めてスライドガラスに塗抹して、アルコールで固定後、各種染色を行いプレパラートを作製します。細胞検査士（日本臨床細胞学会の認定資格を持つ臨床検査技師）が顕微鏡で悪性細胞をマークし、細胞専門医（認定資格を持つ病理医）が診断後、主治医に結果を報告します。**細胞診の結果によって、次の検査や治療の方向性が変わることもあります。**



剖検診断

最後に剖検診断は治療の甲斐なく病気で亡くなりになった患者さんの**死因や病態を解明するもの**で、ご遺族の承諾を得て病理医によって実施される病理解剖業務です。当院では病理解剖を行った症例は、各科臨床医と病理医で合同カンファレンスを開催した後、主治医からご遺族へ剖検診断の報告を行わせていただいています。

臨床医並びに
患者さんや地域の
皆さんに信頼される
病理部になれるよう
病理業務に努めてい
きたいと思います。





患者さんの声に お答えします。

ご意見

乳腺外科外来でお世話になっています。抗がん剤の副作用の事など相談したいことがありますが、看護師さんが一人だけでなかなか相談できず困っています。もっと増員して欲しいです。

お答えします

ご不便をおかけして申し訳ありません。がん関連の相談につきましては、2階⑩総合支援センターでお受けしております。ただし、予約制となっておりますので、お電話（直通 048-852-2861）もしくは窓口でご予約をお取りいただいてからのご相談となります。

ご意見

2階に置いてある植木が枯れかかっています。また、出入口グレーの玄関マットに白っぽいゴミがついていて汚いです。

お答えします

ご指摘いただきました観葉植物についてですが、早急に交換いたします。玄関マットは2週間ごとの交換になっておりますが、汚れの程度を確認し、著しく汚れているようであれば早急に交換いたします。

貴重なご意見ありがとうございました。

ご意見

申し入れはしてあったのですが、私は「点滴恐怖症」で入院中何度か辛い思いをしました。手術前に気持ちが落ち込んでいる時、針を刺すのに2回失敗されました。新しい方を育てることは大切であることは理解しておりますが、せめて指導される方が一緒にいていただけると患者は相当安心するかと思います。

お答えします

看護師間で統一された看護ケアができず、不快な思いをさせてしまい、大変申し訳ありませんでした。点滴をするために2回失敗されたとのことで、病気を良くするため入院されているのに、辛い思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。継続して看護師の手技向上に努めてまいります。

ご意見

整形外科にて初めての手術なので不安な気持ちが一杯でした。でも、先生、看護師の方々ははじめスタッフ皆様が温かく接してくれたので、本当に安心な気持ちになりました。コロナ禍で面会もままならないですが、その代わり、病棟には多くの患者がいるのに一人ひとりにしっかり対応している姿を目の当たりにして勉強になりました。そして、リハビリの時間が本当に楽しかったです。苦手の筋トレももっとやりたい気持ちになったし、お話ししている時も面白かったです。本当にお世話になりました。

お答えします

大変温かい言葉をいただき、ありがとうございます。

スタッフ一同この言葉を励みとしながら、これからも患者さんから信頼される病院となるよう、日々努力してまいります。

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。